

■ 国際アヒリンピックの義肢製作で金賞を受賞した

9月末、韓国ソウルであった「国際アヒリンピック」の職業技能競技・義肢製作部門で金賞を獲得した。これまで鹿児島県からは5人が日本代表として出場しているが、初の最高賞となった。

同競技には4カ国6人が参加。4時間で体と義足をつなぐ「ソケット」と呼ばれる部分を作る技術を競う。課題通りの正確な作りが高く評価された。大会前、右手にまひが出て仕事ができない時期もあったというから、乗り越えての金賞だけに

は馬場 末義さん



かお

喜びもひとしおだ。

20歳代の時、交通事故で障害を負い、自身も義足の生活。「自分が頑張ることで、障害を持つ人たちに励ますことができたらうれしい」

出身の佐賀で、勤めていた証券会社が倒産した。不景気、就職難の時代。「手に職をつけたい」

と故郷を離れ、薩摩川内市の現・鹿児島障害者職業能力開発校で学んだ。

そのまま鹿児島での縁もあって、中礼義肢製作所始良工場でも働く。

50歳を過ぎて飛び込んだ世界。10年ほどで金賞を獲得するまでになったが、一日一日の仕事を大切に、どうしたらきれいに仕上がるか、使いやすい義肢になるか、妥協せず技術を磨く。「障害に甘んじたくない。弱音を吐いたら終わり。健常者と同じ、それ以上の仕事を心がけている」

始良市で一人暮らし。休日はゴルフの打ちっ放しに行ったり、好きなクラシックやジャズを聴いて過す。

「まだまだ未熟。一技術者として受賞を謙虚に受け止め、さらに技術を高めていきたい」。60歳の今もなお、向上心は衰えない。

(社会部・寺原公睦)

